

令和8年度
飯南町総合振興計画等評価委員会
答申書



令和8年7月21日 出雲大社神楽殿大しめ縄架け替え

令和8年9月1日
飯南町総合振興計画等評価委員会

1 はじめに

令和8年度の評価委員会では、令和7年度より開始した「第3次飯南町総合振興計画後期基本計画・第3期飯南町総合戦略」の初年度の評価を行いました。

令和7年度の施策実施状況について説明を受け、意見交換を行い、成果について確認をしました。

答申書の作成にあたり、地域住民や各種団体から選ばれた幅広い委員の意見を取りまとめておりますので、住民と企業・団体・行政が協働したまちづくりのための政策・施策の検討資料、また「飯南町総合振興計画・飯南町総合戦略」の施策推進の参考資料として皆様にご周知いただきますようお願いいたします。

2 評価委員会の目的

飯南町総合振興計画等評価委員会設置要綱の規定により、「飯南町総合振興計画・飯南町総合戦略」の進捗状況等について評価を行い、住民と行政が協働し、地域の特性にあった個性豊かで住民が真に暮らしやすいまちづくりを推進すると定められています。

同要綱に沿い、飯南町を取り巻く現状と課題の把握と「飯南町総合振興計画・飯南町総合戦略」の達成、進捗状況の評価を行いました。

3 評価の方法

「飯南町総合振興計画・飯南町総合戦略」に掲げる施策の実施状況や進捗などを所管課から説明を受け、意見交換を通じて評価委員より助言・提案を行いました。

また、地域住民等への施策説明などを行う際の参考になるものと考え、委員から出た質問についても取りまとめています。

4 評価の状況

1) 評価委員による総評

新しい計画がスタートして初めての評価となりました。目標達成に向けてこれから実績を積み重ねていく施策も多くありますが、子どもの出生数や社会増減数など、早急に結果を出していかなければ人口減少に直結する項目については、その都度必要な対策を講じていただき、施策を進めていただきたいと思います。

2) 総合振興計画等目標指標の状況（抜粋）

目標指標	基準値 令和 5(2023)年(度)	実績値 令和 7(2025)年(度)	基準値 比較	目標値 令和 11(2029)年(度)
新規創業等による 雇用創出数	1.5 (2020-2023 平均)	4	↗	4 (2025-2029 平均)
子どもの出生数	22 人 (2020-2023 平均)	9 人	↘	25 人 (2025-2029 平均)
社会増減数	△4 人 (2020-2023 平均)	△7人	↘	10 人 (2025-2029 平均)
結婚祝金支給件数	2 組/年	5組/年	↗	10 組/年
飯南高校生と地域 住民の交流・協働 回数	35 回/年	95回/年	↗	50 回/年
エコロジー米生産 者の作付面積	158.0ha	418.8ha	↗	400.0ha
特定健診の受診率	54.9%	56.4%	↗	60.0%
Uターンの移住者 数	6 人 (2020-2023 平均)	9人	↗	13 人 (2025-2029 平均)
Iターンの移住者 数	33 人 (2020-2023 平均)	24 人	↘	40 人 (2025-2029 平均)
ふるさと納税件数 と納税額	4,923 件 177,449 千円 (2019-2023 平均)	2,906 件 118,767 千円	↘	6,000 件 180,000 千円 (2025-2029 平均)

3)評価委員からの評価・意見・提案・質問等

※飯南町総合振興計画に沿って記載

政策分野Ⅰ 創造力のある未来の人づくり(子育て・教育・文化)

基本施策1-1 子育てしやすい環境づくり

【意見・提案等】

施策 5 保育環境の充実

・さつき保育所へ通う保護者より、今後について不安の声が上がっている。8月には意見を聴く会があるが、保育所の保護者については、保護者から声を聴く必要があると考える。

【質問等】

Q:KPIの「小中学校におけるタブレットなどのICT機器の活用」の数字は、生徒全員が機器を活用したら100%ということか。

A:小中学校の児童生徒に、「自分としてICT機器を十分に活用できていますか」というアンケートをとり、その中で「十分に活用できている」と答えた児童生徒の割合となっている。

基本施策1-2 飯南町にふさわしい教育環境づくり

【意見・提案等】

施策 2 教育の情報化の推進

・タブレットの活用は、タイピングなど我々より優れていると思う反面、漢字を読むことはできても、文章を書くときに漢字がすぐに出てこない。そういった能力がこれからどうなっていくのか心配。

・AIとの関わりは、子どもたちが活用の仕方を学ぶことも大事だが、活用することによって考える力が低下していくことも心配。良いところもあれば悪いところもあるので、そういった部分を考えて進めていただきたい。

施策 4 飯南高校の魅力化

・高校スクールバスの運行について、以前から志々地区保護者より町へ要望書が提出されていると聞いているので、今一度声を聴いて応えていただきたい。

基本施策1-3 地域で育む人づくり

意見・提案・質問等 なし

基本施策1-4 生きがいのある生涯学習の創出
意見・提案・質問等 なし

基本施策1-5 平等に暮らせる社会づくり
意見・提案・質問等 なし

政策分野Ⅱ 誇れる産業と仕事づくり(産業振興)

基本施策2-1 農業の振興
【意見・提案等】 施策 3 担い手受け皿組織との連携 ・特定地域づくり事業協同組合は、農業だけでなく林業や観光など全てをマルチワーカーのように働く趣旨であり、それができるようにするのが行政の仕事だと思う。そこが定住にも関わってくると思うので、1年中働ける仕組みづくり、それなりの給与をもらえるのも含めてやられるべき。 施策 7 農地の保全 ・クマの頭数が年々増えている。目撃されるのはだいたい似通った場所ということは把握されていると思うが、それにしてもその場所の草がそんなに刈られていないイメージ。しっかりと草を刈って境界をはっきりさせて、なるべく出ないように対策をするべき。今年だけではなく、クマは出やすい状況になりつつあるので、今後のことを考えないといけない。

基本施策2-2 林業の振興
【意見・提案等】 施策 1 町産材を活用した産業の創出 ・飯南縁の森が撤退したということだが、これに変わる組織はあるのか。この組織が町産材の活用、林業魅力化、担い手確保などを担う予定だったと思う。中間組織がすぽっと抜けている状態なので、林業振興が全くできていない状態なのではないか。町で中間組織を担うような代替の役割をされないと計画自体が成り立たないと思うので、力を入れてやられるべき。

基本施策2-3 商工業等の振興	
【意見・提案等】	
施策 2 企業誘致の推進と起業の支援 ・チャレンジオフィスを増やすことを検討してほしい。近隣市町村でも土地に魅力を感じ小さく事業を始める方は少なくなく、人の行き来のきっかけになる。	
基本施策2-4 観光の振興	
意見・提案・質問等 なし	
基本施策2-5 飯南ブランドの構築	
意見・提案・質問等 なし	

政策分野Ⅲ 誰もが健やかな暮らしづくり(保健・医療・介護・福祉)

基本施策3-1 健康づくりの推進	
意見・提案・質問等 なし	
基本施策3-2 地域医療の維持・充実	
【意見・提案等】	
施策 1 医療従事者の確保 ・医療及び福祉従事者確保対策助成金・就業支度金は、義務年限経過後の離職を心配する。反面、この制度があることによって、将来的な雇用促進に繋がればよいとの思いもある。応募がないと医療・福祉従事者の確保が難しくなる。高齢者も多く医療福祉は大事なので、助成制度を考え直すことも必要になるのではないかな。利用される方ににとって良い制度で、尚且つ継続的に勤務していただける体制づくりが必要。 ・仮に退職された場合、再雇用はできるのか。若いうちによそに出てみたいという思いもよく分かるので、若いうちに飯南病院にいたけれどもよそに出られて、子育てが終わり地元に戻ろうとなったときに、再雇用というか町民としての受入がスムーズにできれば良いのではないかな。 ・従事者確保のために何年も福祉の魅力を発信しているが、介護職は毎年募集しても1人も応募者がいない。保育は少しあるが結局町外に出たりされる。介護は学校もどんどん閉校になっており、若い方が介護をしたいという気持ちがないのではないかと大変危惧している。今介護に新しく入られる若い方は外国の方ばかり。介護	

職を増やすには、行政職員にするしかないだろうと言われる専門家もいる。行政として介護の魅力発信でうまくいくと思っておられるのか。特養も合併に向けて新しい施設ができるが、それでも若い子が入ることはないのではないかと懸念している。

・介護職は利用者とのコミュニケーションなど、精神的、肉体的につらい。給料を何とかして高いところに持っていかしか人は魅力を感じないのではないかと。国が動くまで待つかというのも難しいので、何か名目をつけて補助をするような形をとれば、この町の独特の魅力ととらえられるかもしれない。飯南町は若い人が来てがんばっているよとか、逆に今ピンチなので補助をするとか、それを武器にするという施策はどうか。

・地域おこし協力隊で、飯南町の仕事×ITの仕事で収入を増やす仕組みに取り組まれていると思うが、そのアイデアで全く違うところから+いくらという仕組みもできなくはないのかなと思う。連続勤務を少し減らして、空いた時間に何か入れて、金額的なところでももう少し魅力的にするなどどうか。

施策 2 地域のニーズに合わせた診療機能の充実

・飯南病院は DX 化という面で見たとときに、どのあたりの位置づけか。DX というのはやっていかなければどんどん置いて行かれる。DX がらみであれば、国の補助金などかなり高額なものが出ていると思うので、ぜひ活用していただきたい。なるべく行かなくても話をして症状を聞けてという、オンライン的なものを活用されるのも立派な DX だと思うので、そちらをぜひ進めていただければと思う。

施策 4 在宅医療サービス体制の充実

・以前、身内でもご近所でもない方から飯南病院への送迎を頼まれたことがある。ただ知り合い程度の方だが、お礼をいただくのも恐縮で、なにか代わるもの、例えばい〜にゃん PAY でポイントのやり取りや思いやりポイントなど付けられればと思った。共助の中にも気を遣いすぎない対価があるものがないかなと思う。

基本施策3-3 地域共生社会の実現

【質問等】

施策 1 地域共生社会の理解と権利擁護の推進

Q:民生児童委員は役割としてはすごく重要だが、委員の確保だとか次の世代へバトンを渡すとかがなかなか出来ていないことが色々な自治体でも言われていると思うが、飯南町の現状はどのような感じか。

A:令和 7 年 11 月の改選の際、半数以上の委員が辞退される中で、新規の方を探すのに地域の色々な方にご相談をさせていただきながら、なんとか100%の充足

率を確保した。民生委員だからといって高いレベルのものを求めるのではなく、地域の中で自分なりに活動してもらおうよう一生懸命動いていただいている。

政策分野Ⅳ 安心して暮らせる環境づくり(定住・生活・防災・自然環境)

基本施策4-1 定住促進と関係人口の拡大

【意見・提案等】

施策1 住環境の整備

・空き家バンク制度を利用しておられるが、人口が減る以上今後も空き家は継続して増えていく。相続手続きの際に住まいを将来的にどうするかを聞いて、そこで空き家バンクを紹介していくなどの仕組みづくりができるのではないかなと思う。

施策2 受け入れ体制の充実

・UI ターンの相談件数と移住者数が減っている。飯南町が残念ながら選ばれていないという数値。重点目標の中で一番やらなければならないのは社会増減数だが、ここが-7になっている。どう考えても UI ターンを増やすしかないわけだが、知ってもらって関心を持ってもらって相談してもらおうという段階的にアプローチできていない可能性がある。まず投網を広げて魚を捕るという段階がうまくいっていないかなと思う。

・子育て支援はものすごく充実しているし、教育に関しては飯南高校を中心に地域で盛り上げようというのが県内でも有数な町だと思う。子育ては整っているので、仕事をパックで示さないと全く解決しない。林業や農業の話も含めて基幹産業に関わってくる話なので、そこの連携をセットにして、仕事、住まい、教育、暮らしたいなものを全部パックにして、こんなパックがありますよと示していかないと、おそらく選ばれないのではないかな。人口減に関しては他のことを置いておいてでもリソースを振り向けた方がよい。

・定住支援センターを外部に出されていると思うが、HP を見ると全く魅力を感じない。例えば相談会カレンダーというのがあるが、相談会の予定すら全くない。内部でうまくいかないから外に出したと思うが、外に出したけど全くその逆で人数が減っている。これは本当に考え直さないといけない。

施策5 関係人口の拡大

・鳥取県日野町では、日野町までは帰って来るのは難しいが、せめて米子に帰ってきてくれて、日野町の実家にも関わるということに取り組まれている。福岡県の筑豊エリアでも同じ取り組みをしている。自治体の枠の中だけでこれから考えていくのは厳しいということもあり、東京に住むよりは出雲に住んでくれた方が、飯南町

へも足が伸びる。農業の手伝いもできる。その地域に帰ってきてくれるのが一番良いが、なかなかそれは難しいとなったときに、飯南町の場合は出雲圏域の取り組みをしていたり、広島広域都市圏の活動もしている中で、一つの自治体では難しいところを、領域を広げながら広域で取り組んでいくこともこれから必要ではないか。

【質問等】

Q:社会増減数(▲7人)の内訳について、進学・就職に伴う転出のうち「将来的に町へ戻る意思のある転出」と「完全な転出」を区別して捉える調査・分析の予定はあるか。

A:現状、転出者に対し、将来の飯南町への居住意向を問うアンケートを実施している。転出理由ごとの集計はしていないが、年代別の集計を行っている。

施策5 関係人口の拡大

Q:出身者に対する取り組みを積極的にされているが、だんだんまつりを東京・広島で開催され、参加された方はどんな感じだったとか、こういった形で呼びかけをされたか伺いたい。また、大阪も結構出身者がいると思うが、東京と広島というのはなぜなのか。

A:今までの出身者会が高齢化で組織として役割を果たせなくなっている中で、堅苦しい集まりでなくゆるい集まりで若者中心に出身者会的な集まりができないかということで開催した。東京では飯南高校出身の方を中心に企画してもらい、20人前後の方に集まっていた。広島では飯南町出身の2～30代の方に集まってもらいイベントを開催し、参加者の中から新しく出身者会を立ち上げたいという声もお聞きしたので、そういった方とお話をしながら、繋がりをつくっていきたい。うまくいけば大阪も検討していきたい。

Q:「だんだん祭り」等の出身者交流イベントについて、参加者のその後の継続的な関わり(帰省頻度、情報発信の受信状況等)を追跡する仕組みはあるか。一回限りの交流に終わらず、関係人口としての継続的な関わりを可視化・支援する考えはあるか。

A:帰省頻度、情報受取状況を追跡する仕組みは構築していない。

1 回限りの交流で終わらず、コミュニティを通して繋がりが保てるよう、飯南高校卒業生コミュニティと連携して取り組みを行った。

また、若い世代も緩やかにつながれる新たなグループ・団体等の設立も目的としており、参加者同士の交流からそうしたグループ設立の動きが出始めている。

Q:中高生アンケートで「町外に住みたい」との回答が半数を超えていたことについて、これをネガティブに捉えるのではなく、「進学時にふるさととの関わりを保ちながら送り出す」という関係人口的な視点で再解釈し、具体的な施策(同窓会的な組織

化、継続的な情報発信等)に落とし込む考えはあるか。

A:卒業生との交流を促進するためのプラットフォーム構築に向けて検討を進めている。また、だんだんまつりもふるさととの関わりを持ってもらうための機会として実施している。

基本施策4-2 生活基盤の整備

【質問等】

施策1 公共交通の充実

Q:高齢者の運転免許返納後の移動手段(デマンド交通等)について、利用状況と今後の拡充方針を伺いたい。

A:デマンドバスの年間利用者数はR6:3,485人、R7:3,099人で、高齢者の利用者数は把握できていないが、利用者のほとんどが高齢者という状況。拡充については、これまでに引き続き、保健福祉課とも連携した乗り方セミナーを開催する他、「日中の時間帯において、目安時間を設けない『オンデマンド運行』の実証運行」による利用促進や、「赤名及び来島エリアを統合し、乗降場所を追加する」などの対応を行う。

基本施策4-3 消防・防災対策の充実

【質問等】

施策1 防災意識の向上と実践

Q:防災士(防災士連絡会)は現状どのような活動をされているか。地区防災計画の策定支援や、平時の見守り・避難訓練との連携など、既存の人的資源をより組織的に活用する仕組みは検討されているか。

A:防災士の活動は、災害が起こった際の避難所での運営支援や、地域住民に対する防災に対する意識づけなどに協力して頂きたいと考えており、防災士連絡会と協議しながら検討していく。

Q:町内5地区における地区防災計画の策定状況(策定済み・検討中・未着手の内訳)と、地区間で進捗に差がある場合、その要因と町としての支援方針を伺いたい。

A:町内5地区では、志々地区のみ地区防災計画が策定されている。また、地区間での進捗に差があるのは、地域ごとに防災訓練や防災研修などが開催されているためと思われる。

今後、防災減災を強化するためには、計画により実際の動きを明記していくということが重要となるので、町としては策定に向けて進められる地区があれば防災に関

する情報提供など支援を行っていきたい。

施策 4 消防設備と消防団活動の充実

Q:消防団員数・自主防災組織の組織率について、直近の推移と担い手確保の見通しを伺いたい。介護・医療分野の人材不足が強く議論されていたが、防災の担い手についても同様の構造的な課題があるのではないかと感じる。

A:自主防災組織の組織率は100%で、単位は自治会単位。

消防団員数は、R8 236人、R7 239人、R6 245人、R5 240人、R4 251人となっており、令和6年に増加したが、減少傾向にある。ご質問・ご意見のとおり、人口減少と併せて現役世代の減少などにより消防団員の確保に苦慮している。現在は、消防団幹部会にお願いし、地域内で消防団に入団していただけたらという方に声掛けをしていただくよう取り組んでいる。

基本施策4-4 防犯・交通安全の充実

意見・提案・質問等 なし

基本施策4-5 自然環境の保全

意見・提案・質問等 なし

基本施策4-6 脱炭素のまちの推進

【意見・提案等】

施策 1 循環型社会の形成

・コンポストで、自然環境保全の意識啓発に取り組んでおられるが、コンポストの設置には土地が必要。生ごみは土地がない方でも出るので、生ごみを乾燥させる機械を購入するのに助成金はないのかなと以前から思っており、こうしたことがもしあると自然環境を守ることに繋がるのではないかと。

政策分野V 協働で進めるまちづくり(自治・行政運営)

基本施策5-1 住民主体のまちづくりの促進

意見・提案・質問等 なし

基本施策5-2 協働のまちづくりの推進

【質問等】

施策2 まちづくり支援人材の配置・育成

Q:地域おこし協力隊員数が近年減少しているが、その要因(任期満了後の定住率、募集の困難さ、離任理由等)をどのように分析されているか。

A:協力隊が減少している理由としては、協力隊を活用する枠自体が減っていることもあるが、他自治体の協力隊に比べ報酬額が低く、応募検討の時点で不利になっていたことも推測される。これまでは会計年度任用職員としての採用としていたが、企業・団体等が雇用する形態も可能とした。これにより企業・団体等の規約に準ずる報酬額で募集を出すことができるようになった。

また、離任理由は「隊員と受入先との認識の違い」が多い。応募前の事業内容等の説明において認識の違いが生まれ、いざ着任してからトラブルになる事例があったため、令和7年度から採用支援業務を外部委託とし、応募前に委託先と応募者が複数回面談を行う、町が採用したい人物像にスカウトをかけるなどの工夫を行っている。

基本施策5-3 健全で効率的な行政運営の推進

【意見・提案等】

施策3 行政評価システムの確立

・各施策において打ち出してから施行後様子を見て分析をし、さらに磨いて動いていければ数字にも反映され、うまくいかない要因もみえてくるのではと考える。

施策4 土地・公共施設等の有効利用

・施設の集約の検討について、まちのデザインというものが大事だと思っていて、例えば遊具の整備についても、遊具を使う方は車で移動できる方じゃないかなと思っていて、あっちもこっちも作るのではなく、集中したやり方をされた方がいいのではないか。庁舎を中心としたデザインをするのであれば、農林会館は違うものを建て、色々なものを集約していった特化したものを作るとか、教育だったら来島のところ、頓原地区は医療福祉を集中して作っていく。そういうデザインをからめたまちづくりをした方がいいと思う。

施策5 職員の資質向上

・若手職員のコミュニケーションの取り方ということで、ある交流会に参加した際に外部から来られた方にお酒を提供する方がいない状況で、参加者が自らお酒を持って行っていた。役場の職員が何をしているかというスマホを見ていた。外部に

出されて研修をされるのもよいが、基本的なことを内部でもされたらどうかと思う。

・職員向け研修について、自分を自分で守れる能力を身につけて欲しい(対話する力、抱え込まない力等)。研修や職務についてまず目的の認識と、理解度を高めて受講してほしい。

【質問等】

施策 3 行政評価システムの確立

Q:これまでの Well-being 調査で示された「不便だが幸せ」という幸福度と生活満足度のギャップについて、総合計画の施策検討にどのように反映されているか。KPIに現れない生活の質的側面を捉える取組はあるか。

A:Well-being 調査により可視化された本町の強み・弱みを施策検討の際の材料として取り入れている。例えば買物の項目について満足度が低かったが、年齢が上がるにつれ満足度が低下する結果であったため、買い物弱者対策を施策として取り入れるなどしている。生活満足度は正確に数値化できるものではないが、調査を通じて可視化された弱みの部分を補えるような施策の実施を心がけている。

施策 4 土地・公共施設等の有効利用

Q:以前から飯南町の4つの拠点の話があったが、今の飯南町でどのように残っているのか。自治区長として地域の方と話をすると、あの時の約束を守ってもらわないといけないという年配の方の声もある。

A:4つのゾーニングということで、合併当初にそういう話は確かにあったが、新町建設計画の中にはそのことが掲載されていない。それに縛られて来島に保育所も学校も建てましようと言われると、今の財政状況では厳しい部分もある。どこを町民の皆さんに我慢してもらって、どこに力を入れていくかを町民の皆さんにも理解してもらわないといけない。ゾーニングが大事なのではなくて、町民の皆さんが何を望んでおられるかを大事にしていけないといけない。

基本施策5-4 広報・広聴の充実

【意見・提案等】

施策 1 広報の充実

・普通民間だとホームページにどれくらいの人がアクセスをしてどういう記事を出したときにどれくらいの反応があったかというのを分析する。次こういう人にこういう情報を出そうとしたときの参考になる。

KPI でホームページの記事数が何件になりましたよというよりは、LINE の登録者

が何人になりましたとか、何人まで増やしますとかの方が、UI ターンとかそういう部分の情報発信の役に立ったのかならなかったのかの判断にもなる。
単に情報を出せばいいということではなく、それが魅力があるのかなかったのか、ということだと思うので、ぜひ KPI を LINE の数にしていきたい。

施策 2 広聴の充実

・広聴とあるが、声の収集方法も検討してほしい。公な会のような形式だとなかなか出れない、意見が言いにくい人も少なくない。これに関しては住民の話す力をあげていくことが一番だが、なかなかすぐには変わらない。私は普段から地域の方からいろんなことを話されるが、町の職員へ話した方がいいと思ったことは役場へ連絡している。行政の中で住民の生活に大きく関わることや繊細なことは伝えたいし、手段が増えれば声も届きやすくなるのではと考える。

5 評価委員会の開催日程と時間

開催日：令和 8 年 7 月 22 日（水）

場 所：飯南町役場 2 階会議室

時間及び説明内容

13：10～13：30	全体説明
13：30～14：00	政策分野Ⅰ
14：00～14：35	政策分野Ⅱ
14：35～15：15	政策分野Ⅲ
15：15～15：25	休憩
15：25～16：00	政策分野Ⅳ
16：00～16：40	政策分野Ⅴ

6 添付資料

- ・評価委員会名簿
- ・第 3 次飯南町総合振興計画・第 3 期飯南町総合戦略重要業績評価指標（KPI）一覧
- ・令和 7 年度新しい地方経済・生活環境創生交付金事業実績及び令和 8 年度事業
- ・第 3 次飯南町総合振興計画・第 3 期飯南町総合戦略_施策実施状況報告書

7 令和8年度 飯南町総合振興計画等評価委員会

委員氏名	所 属 等	備 考
影山 和典	住民委員	委員長
吾郷 由美子	飯南町社会福祉協議会 地域福祉課長	副委員長
津和野 基己	飯南町商工会 事務局長	
芥川 治	飯南町 PTA 連合会 会長	
勝部 美穂子	山陰合同銀行 赤名支店 支店長	
小玉 泰宏	山陰中央新報社 編集局次長	
東 良太	島根県中山間地域研究センター 主任研究員	
山本 かおり	住民委員	
石橋 勇二	住民委員	